

ISSN-1348-8872

AMAMI News Letter

NO.31

<2007年度 夏季号>



■ 研究調査レビュー

沖永良部島、与論島、喜界島の水事情調査

■ しまゆむた

奄美の民俗文化の事例

沖永良部島の近代経済史料—東家文書の紹介

■ 島嶼スケッチ

平成19年度奄美サテライト教室開講式

■ Research Review

- 2 Water Situation in the Amami Islands of Okinoerabu, Yoron and Kikai.
Seto Masayuki (Tokyo University of Agriculture and Technology)

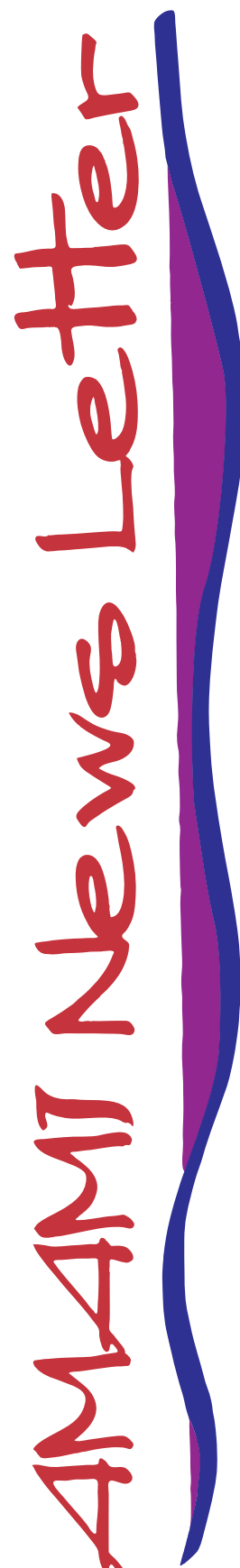
■ Amami Report

- 7 An example of the dissemination of Amami folk culture
—the life history of Wada Kiyō from Inokawa on Tokunoshima(1)
Honda Hirotaka (Chairman, Tokunoshima Local Research Group)
- 16 Modern economic historical materials of Okinoerabu island
—Introduction of the Higashi person document—
Ijichi Hirohito (Wadomari town historical folklore data pavilion/Temporary staff)

■ Amami Sketch

- 24 The 2007 Amami Access Centre opening ceremony

■ Information



奄美ニューズレターについて

- 奄美ニューズレターは、2003年度からはじまった鹿児島大学全学総合プロジェクト「島嶼圏開発のグランドデザイン---南西諸島における環境ガバナンス型地域政策」の成果を発表する目的で発刊されました。
- 奄美群島および沖縄を含む広い南西諸島を沖縄ではなく、奄美群島から分析しようという新しい試みです。
- 研究は、文化・自然・人・経済・情報・農学・工学という鹿児島大学の研究者を中心とする研究グループによって行われております。奄美ニューズレターは、その研究を広く南西諸島の研究者に公開し、わが国の島嶼研究の向上を目指すものです。
- 奄美ニューズレターは、2005年11月に発刊された24号まで、月刊でしたが、2006年1月発刊の25号からは、発行責任を奄美委員会が担うことになり、1年間計4号を季刊で発刊することになりました。
- 奄美ニューズレターは、25号から季刊の学術雑誌となり、下記の内容を掲載いたします。
 - ・研究調査レビュー 鹿児島大学所属の研究者からの成果発表
 - ・しまゆむた 奄美群島区の地元研究者からの現地レポート
 - ・島嶼スケッチ 上記以外の寄稿文
 - ・鹿大資料紹介 鹿児島大学所蔵奄美資料の紹介
 - ・ちーびし 執筆者紹介、奄美関連の行事案内、編集後記
- 企画と編集を担当する奄美委員会のメンバーは、下記のとおりです。

奄美委員会

研究科長	木部 暢子			
奄美サテライト特任教授	井上 晃男			
奄美委員会委員長	山田 誠			
法政策学科選出委員	飯田 泰雄	永野 司		
経済情報学科選出委員	皆村 武一	山田 誠	山本 一哉	
人文学科選出委員	桑原 季雄	西村 明		

目次

■ 研究調査レビュー

- 沖永良部島、与論島、喜界島の水事情調査
瀬戸 昌之 (東京農工大学) ————— 2

■ しまゆむた

- 奄美の民俗文化の事例
～徳之島井之川和田キヨ姫の生活史 (1)～
本田 碩孝 (徳之島郷土研究会会長) ————— 7

- 沖永良部島の近代経済史料－東家文書の紹介
伊地知 裕仁(和泊町歴史民俗資料館補助職員) ————— 16

■ 島嶼スケッチ

- 平成19年度奄美サテライト教室開講式 ————— 24

■ ちーびし